

現地説明会・発掘調査成果報告会を行いました。

鍋倉第2遺跡現地説明会

10月26日(日) 13:30~15:00 発掘調査現場にて実施

調査担当者が、調査現場内で検出した集石遺構、陥し穴状遺構や出土遺物などを説明しました。地元住民の皆様が多数参加されました。



百塚原古墳群発掘調査成果報告会

11月1日(土) 9:30~11:00 永野地区集会施設にて実施

調査終了後、出土した土器などを地区の集会施設に展示して、住民の皆様を対象に今年度と昨年度の調査の成果を報告しました。



出前講座・出前展示に申し込みませんか?

宮崎県埋蔵文化財センターでは、職員が土器や石器などの遺物を持参し、学校や団体の皆様に、地域・周辺の歴史についてお話しする「出前講座」を行っています。また、本物の土器や石器、解説・写真パネルなどの「出前展示」のご希望にもお応えします。いずれも、費用はかかりません。日程調整や準備に時間が必要なため、普及資料課までご相談ください。本物の土器や石器を学校向けに貸し出す「学習キット」もご利用ください。

連絡先: 宮崎県埋蔵文化財センター分館 普及資料課 TEL 0985-21-1600



平成27年度普及事業のお知らせ

※事業の日程、内容についてはやむを得ず変更することがあります。ホームページ等で事前にご確認ください。

埋蔵文化財講座 「ここまでわかったひむかの歴史」

場所: 分館(神宮) 第3日曜日13:30より 参加無料・申込不要

近年報告書の刊行された遺跡を中心に担当者が講演します。

- 5月17日(日) 五ヶ瀬川流域のムラ 地蔵ヶ森遺跡(延岡市)
- 6月21日(日) 野尻の中世山城 戸崎城跡(小林市)
- 7月19日(日) シラス台地に暮らした人々 唐人町遺跡(串間市)
- 12月20日(日) 宮崎平野の古墳と集落 竹之下遺跡など(宮崎市)
- 1月17日(日) 発掘された古代の都城志布志道路!? 大年遺跡(都城市)
- 2月21日(日) 大淀川と共に暮らした人々 大塚第1遺跡(都城市)

遺跡発掘速報展2015 観覧無料

近年報告書を刊行した置県130年記念報告書収録遺跡や整理作業を実施した南九州短大旧蔵資料を中心に展示します。

場所: 県立図書館 特別展示室
展示期間: 8月22日(土)~9月6日(日)

遺跡発掘速報会 参加無料・申込不要

前年度までに発掘調査を実施した遺跡の速報講演会です。

場所: 県立図書館 視聴覚室
実施日: 8月30日(日) 13:30~15:30

報告遺跡: 中床丸遺跡、笹ヶ崎遺跡、鍋倉第2遺跡、一本松遺跡、百塚原古墳群など

夏の体験講座 「石の矢じり製作体験」

参加無料・申込み必要

実際に石器を作ってみる考古体験講座です。一般、ファミリーをとわず参加できます。

場所: 分館(神宮) 実施日: 8月9日(日)



施設公開 「埋文センターで考古学体験」

参加無料・申込不要

埋文センターを知っていただくイベントです。さまざまな体験やプレゼントを準備しています。

場所: 分館(神宮) 実施日: 11月3日(火・祝)

移動展示会 「ふるさと発掘!埋文キャラバン」

埋文センター所蔵の遺物から逸品を選んで各地で公開する新企画です。講座や解説もあわせて実施します。

五ヶ瀬会場 観覧無料

実施場所: 五ヶ瀬町自然の恵み資料館
実施期間: 9月18日(金)~10月12日(月・祝)
関連講座: 9月27日(日)

川南会場 観覧無料

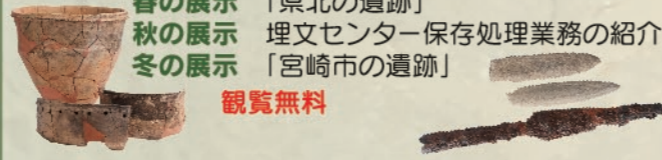
実施場所: 川南町立図書館
実施期間: 11月18日(水)~12月6日(日)
関連講座: 11月23日(月・祝)

分館テーマ展示

神宮の分館では常設展示の一部を季節ごとに入れ替えてテーマ展示しています。今年度は3回の展示替えです。

- 春の展示 「県北の遺跡」
- 秋の展示 埋文センター保存処理業務の紹介
- 冬の展示 「宮崎市の遺跡」

観覧無料



記紀編さん1300年・西都原古墳群発掘100年

宮崎県埋蔵文化財センター 巡回展

みやざき発掘100年 -いにしへの「道」と交流-

県内3会場で開催しました。

- ① 延岡市 内藤記念館
平成26年 7月5日(土)~8月3日(日)
- ② えびの市歴史民俗資料館
平成26年 8月12日(火)~9月7日(日)
- ③ 日南市南郷ハートフルセンター
平成26年 11月11日(火)~12月7日(日)



延岡会場



えびの会場

日南会場

宮崎県埋蔵文化財センター通信

17号



延岡会場の講座の様子

平成26年度は県内3会場で巡回展を実施しました。この展示会は、平成25年に宮崎県埋蔵文化財センターが開催した特別展「みやざき発掘100年-いにしへの『道』と交流-」に出品した資料を中心に開催地の考古資料を加えて再構成したものです。展示は、平成7年度から約20年をかけて大規模な発掘調査を行った東九州自動車道関連の166遺跡の出土資料を中心に、旧石器時代から江戸時代までを時代ごとに6つのコーナーに分けて構成しました。各会場にたくさんの観覧者をお迎えすることができ、発掘調査の成果である郷土宮崎の貴重な文化遺産を体感していただくことができました。また、各会場では講座も実施し、県内や地域の文化財について詳しい解説を実施しました。



平成26年度の発掘調査

宮崎県埋蔵文化財センターでは、平成26年度に県内6か所で発掘調査を実施しました。今年も、いにしえの人々の使った道具(遺物)や生活の跡(遺構)など、郷土宮崎の歴史を語る貴重な資料がたくさん見つかりました。今回は、調査の結果を速報でご紹介します。出土遺物や記録した遺構は、埋文センターで土器の接合や製図などの整理作業をすすめ、報告書にまとめていきます。



① 中床丸遺跡

都城市梅北町

調査期間: 2014年4月21日~2015年1月16日

中床丸遺跡では、主に縄文時代早期と縄文時代後期~晩期の遺構・遺物が確認されています。特に、縄文時代早期の地層からは、集石遺構が9基、陥し穴が1基見つっています。また、縄文時代草創期の土器片も見つっています。これらの遺構や遺物は、当時の人々の生活の様相を語り、火山灰層が厚いため縄文時代早期の調査があまり行われていなかった都城市域の縄文文化の解明に大きな役割を果たすものと考えられます。



集石遺構と周辺の散礫

② 笹ヶ崎遺跡

都城市梅北町

第1次調査 調査期間: 2014年5月27日~2015年2月27日

第1次調査の調査区で見つかった遺構・遺物として特徴的なものは、中世の掘立柱建物跡と陶磁器です。特に、掘立柱建物の規模の大きさと中国製の陶磁器の出土率の高さは注目すべき特徴であり、近隣に所在する平季墓の居館跡伝承地等と考え併せると、本遺跡の遺構・遺物と当時の有力な勢力との関連が推察されるところです。



第1次調査区の掘立柱建物跡の柱穴

第2次調査 調査期間: 2014年7月28日~2015年2月27日

第2次調査の調査区では、中世の土塁・堀切・溝と推定される遺構や、陶磁器類や宋銭などの遺物が確認されました。出土した陶磁器類には、当時高級品であった、中国製の青磁や白磁が数多く含まれており、有力者が暮らしていたと推測されます。こうした遺構や遺物の性格から、中世には城館跡であった可能性があります。その他、縄文時代後期~晩期頃の土器片や石斧などの石器類、弥生時代の土器片なども出土しています。



第2次調査区の土塁と堀切

③ 鍋倉第2遺跡

えびの市大字大河平

調査期間: 2014年8月25日~10月30日

鍋倉第2遺跡は、加久藤盆地の東の縁近くの丘陵上に位置しています。調査の結果、丘陵の平坦地に集石遺構が3基作られており、時期差はあるものの丘陵斜面に陥し穴状遺構が2基確認されました。人間の滞在を裏付ける遺構等は、丘陵頂上部の狭小な平坦面のみに分布していました。本遺跡の遺物は希薄で、おそらくこの場所は、縄文時代早期のごく短期間の滞在の跡で、必要に応じて集石遺構で食料の加工、調理を行うキャンプサイトの利用をしていたと考えられます。



縄文時代の集石遺構

④ 戸崎城跡

小林市野尻町

調査期間: 2014年6月9日~8月29日

戸崎城跡は、自然の地形を巧みに組み入れて防御機能を高めた中世の山城です。今回の調査で、曲輪内連絡通路や曲輪の裾を巡る道路状遺構・堀底がV字状を呈する堀切・土塁を確認しました。また、それぞれを改変し防御性を強めていたことも分かりました。遺物は、主に中国製の陶磁器が出土しており、15世紀から16世紀にかけて山城として大きな役割を担っていたのではないかと考えられます。その他、西南戦争の塹壕状遺構を確認することができました。



戸崎城跡を南東より撮影(手前は野尻湖)

⑤ 一本松遺跡

都城市山之口町

調査期間: 2014年11月4日~12月19日

一本松遺跡は、都城市山之口町麓地区の国道269号線沿いにあり、宮崎自動車道山之口サービスエリアの西側に位置しています。調査の結果、南北が主軸の中世の柱穴列が検出され、その並びから、堀の一部であった可能性があります。また、中国から輸入された青磁や唐津、備前系の陶器などが出土しました。さらに、鉄製品や鉄を生産する際に出る鉄のくず(鉄滓)、鞆の羽口などの鍛冶関係の遺物も出土しています。遺物の出土状況から、この周辺で何らかの形で鉄生産が行われていたと推測されます。



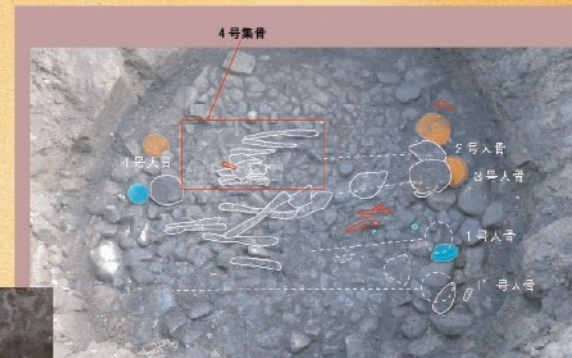
一本松遺跡を北西より撮影(奥は山之口サービスエリア)

⑥ 百塚原古墳群

西都市大字三宅

調査期間: 2014年9月16日~11月14日

百塚原古墳群は西都原古墳群が立地する台地西側の丘陵上に分布する古墳群で、県指定史跡「妻町清水・西原古墳」と「三納村古墳」をあわせて、百塚原古墳群と呼ばれています。今年度の調査の結果、墳丘を失って、周溝(古墳の周囲を巡る溝)だけが残った古墳が2基確認されました。円墳の大きさは直径約14mの規模に復元されます。周溝の中から、須恵器や土師器の坏や高坏、壺といった土器が出土しました。また、南九州の古墳時代に特有な墓である地下式横穴墓も1基見つかり、古人骨が4体分以上残っていました。同時に見つかった土器から、古墳時代末の、今から約1400~1500年前(6~7世紀)の頃のものだと考えられます。



1号地下式横穴墓 古人骨出土状況
青色は須恵器 橙色は土師器



周溝出土の土師器壺